

開催報告

トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会 第8回 天王川自然再生ワーキンググループ



開催日：2016年6月29日(水)18:30~20:40

場所：トキ交流会館2階会議室

参加者：WGメンバー13名、傍聴6名

自然再生後の水辺の“維持管理のあり方”について議論を行いました。

今年4月から当ワーキング・グループでは、天王川を自然再生させた後の“維持管理のあり方”について議論を始めました。

今回はその第2回目として、「効率的に維持管理していくにはどうすればよいか？」をテーマに議論を行いました。

出席者からは、この地域に根ざしてきた植生へのこだわりなどが感じられ、次回、植生の専門家をお招きし、さらに深い議論を行うこととなりました。

今回は、天王川周辺で行った植生調査の結果をメンバーに示したうえで、自然再生後の植生がどのようになりうるかを説明したうえで、なるべく手間をかけずに維持管理できる方法について意見交換しました。

また、「ひつじ」の飼育を体験しながら草刈り効果を確認する社会実験を行うことについてもご意見をいただきました。



意見交換会での主なご質問やご意見

【植生について】

- 天王川には、トキとホタルという2つの大きな柱があるが、希少な植物がきちんと増えたり、残っていたりすることも自然再生では大切なことだ。
- 植生は、ここをどんな場所にしたいかということに大きく関わってくると思う。維持管理が楽になるからといって、管理しやすい植物を持ち込むよりは本来の植生を再現するような形とすべき。
- 佐渡の希少種を持ち込むことも考えられるが、上流にあれば流れてきて環境が合えばここで増えてくると思うので自然に任せておけばよいのではないか。

【維持管理になるべく手間をかけない方法について】

- 湿地をトラクターにより楽に維持管理できるようにするより川の氾濫にまかせて雑草を抑制すべき。問題は小雨のときに繁茂する雑草をどうするかだ。
- 数年に1回とか、やはりトラクターを入れる必要はでてくるのではないか。その場合も考えた場合、湿地の基盤をしっかりしたもので作っておく必要がある。
- 外来種への対応は自然再生を行っていくうえでとても大事なことなので検討が必要だ。

【ひつじを用いた社会実験について】

- 佐渡ではひつじよりヤギの方が相応しいのではないか。
- 里山の風景に家畜動物がいることはおかしくはないが、糞の問題などこの社会実験を通じてメリットとデメリットの検討が必要だ。
- ひつじの良い餌場（草地）があったら情報提供してほしい。

【その他】

- ホタルの生態には良いが、人間にとって良くないのでは問題がある。川に被さってきている木の処理なども含めての自然再生としてほしい。

【今後の予定】

- 概ね1ヶ月後を目途に第9回WGを開催し、植生の専門家の講演とメンバーとの意見交換を行います。

天王川自然再生ワーキンググループの構成メンバー

- ◆ 地元集落： 潟上集落、正明寺集落、田野沢集落
- ◆ 関係団体： 佐渡生きもの語り研究所、トキどき応援団、潟上水辺の会、加茂湖漁業協同組合、佐渡島加茂湖水系再生研究所、生樁の自然を守る会
- ◆ 学校関係： 伝統文化と環境福祉の専門学校、佐渡市立行谷小学校
- ◆ 行政機関： 環境省佐渡自然保護官事務所
- ◇ 事務局： 佐渡地域振興局地域整備部、佐渡市役所建設課、佐渡市役所農林水産課

問い合わせ先 新潟県 佐渡地域振興局地域整備部 担当) 計画調整課 水倉、藤澤

TEL : 0259-74-4040 FAX : 0259-74-2048 Email : fujisawa.masamichi@pref.niigata.lg.jp